



■新年のご挨拶 会員の皆様へ



謹んで初春のご挨拶を申し上げます。昨年はコロナ禍という未曾有の事態に直面し、都草も組織運営に大きな変化を求められる1年でした。思い起こせば和気藹々と新年会が催されたのが昨年1月下旬。パンデミックという言葉が報じられ始め、都草としても主な活動を停止する中で、検温器・フェイスシールドの購入、3密回避のためのオンラインシステム(リモート会議・YouTube発信)の導入などの対策を図りました。とりわけ役員が知恵を絞り異例の形となった第14回都草通常総会を無事終了。災禍にあっても何か都草らしい活動をと「都草色とりどり」開始。事務所クラスター対策のガイドラインを作成。7月末、感染対策を実践しながら久しぶりの美化活動。秋には他の会員活動や都草講演会、京都通模擬試験を実施。一部の受託事業の再開に加え、49日間にわたった両足院特別公開でのご案内など、会員の安全を第一にできる範囲での活動を行ってまいりました。

さて、今年令和3年は都草創立15周年に当たります。歴探など会員活動の質の向上と感染防止を図るべくワイヤレスガイドシステムの導入など、ウィズコロナ、アフターコロナの状況を見据え、今後の活動を皆様と共に模索していきたいと思っております。15周年を機に、コロナ禍に負けず都草のさらなる発展を目指す所存です。本年も皆様のご指導ご協力をよろしくお願い申し上げます。まずは早い段階で感染が収束することを念じ、皆様のご多幸とご健康を心よりお祈り申し上げます。(理事長 小松 香織)

■歴史探訪会で初めてワイヤレスガイドを使用！～坂本の街並みを歩く～



昨年8月に歴史探訪会の4支部が集まりコロナ禍での活動方法を検討し、参加者の密を避けるために、定員40名(予約制)の2班編成、説明には「ワイヤレスガイド」を使用することを決定した。

11月28日の開催に向け、11月3日には他支部も含めてワイヤレスガイドのための下見を行い、いざ本番。当日スタッフはいつもより早めに集合し、通常の資料準備に加え班別のワイヤレスガイドのチャンネル設定作業も。これが思いのほか時間がかかった上、早めに来た会員の対応などもあり、スタッフは大混乱。

ワイヤレスガイドの性能は大変良く、半径40～50メートルの範囲はカバーでき「広い境内のどこにいても良く聞こえる」と、参加者の評判は上々であった。ガイド側にとっても、列が長くなる中で最後尾の方が到着する前に説明を始めても全員に声が届くこと、歩きながらも案内できること、さらには「車が来ま～す」など安全管理にも役立ち、良いことづくめであった。

今回はレンタル機器を使用しての実験であったが、コロナが収束しても、歴探にはとても有用だと考えられるので、ぜひ都草で購入していただければと思う。(都草事務局:1月に購入済み)

当日は予約なしの参加や連絡なしの欠席があり、機器台数が決まっていることや、全員が集まらないので出発できないという問題が発生した。今後は会員の皆様のご理解とご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。(会員 田中 まさみ)



■ 「町中で能楽を楽しむ」



予定募集人数の24名、好天の下、鶏鉾町の池坊短大前で集合。今回の散策は500年前、狩野永徳の「上杉本 洛中洛外図屏風」に描かれている、室町通～松原通～四条通など散策しながら、能楽に関係する場所を10カ所訪れ解説しました。その内9カ所が寺社で、千年前から数百年前に創建されましたが、町中の密集地域であり火災・水害・地震などで崩壊、焼失。都人は再建を繰り返し、今日までこれらの寺社を残してきました。

室町時代には京に観阿弥・世阿弥親子が奈良から来て今日の幽玄能を確立。観世流には約200番の演目がありますが、その20%は京の町を背景とするものです。

現在、能楽の中心地は東京ですが、京都は「能楽の聖域」、「原点地」です。

これらを前提として「菅大臣神社」「新玉津嶋神社」「因幡薬師」「夕顔伝説」「佛光寺」「神明神社」「錦天神」「誠心院」「誓願寺」を訪れ、簡単に能楽を解説。そのほとんどが世阿弥作といわれているものです。

また能楽だけでなく、町中を散策しながら松原通にはお稲荷さんが多いこと、上がる下がるにあまり知られていない通りがあることなどを案内しました。たとえば「若宮通」「小田原町通」「諏訪町通」「不明門通」「間之町通」など。さらに烏丸通西側の京都銀行本店付近には「高島屋」の創業地があり、創業者の飯田新七は東にある「因幡薬師」を信仰し、灯籠などを寄進、今日でも同社は寄進を続けています。それ故にわが国百貨店でトップを続けているのです。

京都の町中に「能楽の聖地」を散策し、改めて京都の町の良さを感じていただきました。(会員 木村 哲夫)

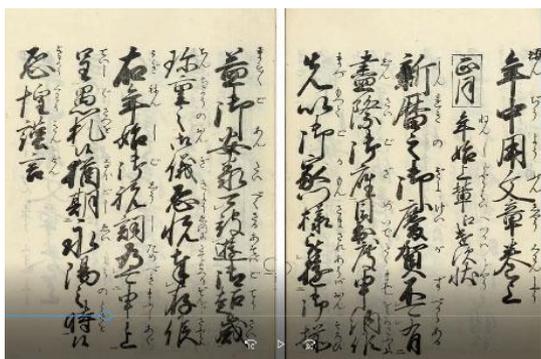
■ オンラインでの古文書講座

昨年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、都草の多くの活動が中止や延期を余儀なくされるなか、各担当理事や部長が様々なアイデアを出しあいながら、活動再開を模索し続けた一年でした。

人と人とのコミュニケーションが活動のベースとなる以上、オンラインに切り替えられるものは極々限られていますが、古文書講座はその中の一つになりうるかもしれないと、年明け早々に2回のみのお試し講座を実施しました。

お申込み下さった12名の参加者には、少しでも不安の解消になればと、ZOOMの使用歴を事前に確認した上で当日を迎えました。事務局の応援もあり、開始時間までには全員がオンラインで繋がることができ、画面で参加者の皆さまの笑顔が確認できた際にはホッと致しました。

テキストには講師の伊東宗裕先生が長年調査に関わっておられる長谷川家文書のなかから、「往来物」といういわゆる教科書のような文献を使って、江戸時代の「年賀状の書き方」の作例を読んでみました。崩し字はも



しろんのこと、江戸時代独特の表現や文字の使い方も学ぶことができました。

緊急事態宣言下、遠方にお住いの方にも安心して講座を開催できる手段があるとわかっただけでも貴重な機会ではなかったかと思います。講師をお引き受け下さった伊東先生もオンライン講座は初体験とのことでしたが、ZOOMを使ってどのような授業が可能なのか一生懸命お考え下さいました。心より感謝申し上げます。(副理事長 松枝 しげ美)